

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 6 日

所 属：生命・環境科 学部 臨床検査技術 学科

氏 名： 松井 清彦 職位： 准教授

役 職：

I ティーチャング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

臨床検査技師に求められる役割は、医師が患者を診断するためや治療の効果などを判定するために必要な検査を行い患者の生活を向上することである。さらには、国民の公衆衛生を向上させることも担っている。学生が、これらの目標を達成するために必要な技術を習得することができるようにすることが科目担当者としての責務である。

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
検査管理総論	臨床検査技術学科	必修	2	95
公衆衛生学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	3	89
公衆衛生学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	4	92
臨床検査学総論実習	臨床検査技術学科	必修	3	89
公衆衛生学実習	臨床検査技術学科	必修	4	92

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12行（320字～480字））

臨床検査には、心電図検査や超音波検査など生理学的な検査や血液や尿などを分析する検体検査がある。日々行われる検査において、精確な検査を行うには知識だけではなく技術も必要である。また、検査が精確に行われているか評価することは検査結果を担保するうえで重要な要因の一つである。学生がこれらのことを理解し、技術を習得できるようにすること

が大切であると思う。一方、公衆衛生は個々の人間ではなく大量のデータを集め解析を行うことで問題点を見つけ、解決する視点が必要である。我々の住む社会は、ますます情報処理技術が発展することが予想される。特に、データサイエンスという考え方が重要視されることから、臨床検査においても、検査ができれば良いというだけではなく検査によって得られた情報を集め解析することが求められるようになっていられると思われる。実習をとおして、学生が自ら考え問題解決をすることができるようにすることが教員としての責務であると考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

学生教育においては、知識を教授するだけでなく学生自身が講義内容を理解し身に付けなければならない。そのためには、書くという事が大切であると考えている。書くことで、知識を整理し理解を深めることになるのでできるだけ板書をしてノートに書いてもらうことをしている。さらに、振り返るために前回までの講義についての小テストを行っている。小テストは、採点とともに間違ったところを添削し学生に返却を行っている。

アクティブラーニングについての取組

アクティブラーニングについては、自分が担当している講義の中でどのように活用するかが課題と考えている。知識を教えるだけでなく学生自らが課題を考え、問題点を解決できるよう導いていくにはどのような手法が必要かを模索している。

ICT の教育への活用

公衆衛生学実習では、google meet をとおして、自分のパソコンに統計ソフトをダウンロードして実際にソフトを使ってデータ処理を行っている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください

① 教育（授業、実習）の創意工夫（A～C） : B

② 学生の理解度の把握（A～C） : B

③ 学生の自学自習を促すための工夫 (A～C) : B

④ 学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A～C) : A

⑤ 双方向授業への工夫 (A～C) : C

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

2022 年度は、新型コロナウイルスの影響が減ったこともあり前年までのオンラインから対面講義に変わった。オンライン講義しか経験をしていない学生にとっては、対面講義に慣れない学生が散見された。対面講義では、オンラインと違い講義のペースを早く感じる一方講義中に生じた疑問や理解ができなかった部分について講義終了後に聞きにくることができるためコミュニケーションが取れやすかったのではないかと思う。対面講義になったので、小テストを行うことができるようになったので行った。小テストは、講義前に前回までの内容の重要点にフォーカスして講義を振り返ってどこが重要であるかを理解するのに役立ったと思われた。実習では、前年までは予定の半分しかできなかったが 2022 年度は従来の内容を行うことができた。しかしながら、実習の人数が 2 倍になったことで、目が届きにくい部分があったので次年度以降の課題として工夫しなければならないと感じた。また、学生が自発的に実習に向き合うことができるよう自習課題の量を少なくし取り組みやすくした。学生の疑問にリアルタイムでフィードバックできる環境下における講義や実習は、教員と学生の双方向によるコミュニケーションを高めるだけでなく教育効果も高くなると思われる。

国家試験対策では、過去 10 年分の過去問題について内容を吟味するとともに模擬試験等の結果から学生が十分に理解していない分野について重点的に講義を行った。また、講義終了後には講義内容について学生からの質問に対して分かりやすく解説を行うなどきめ細やかな対策に努めた。

5.学生授業評価 (分量の目安：4～7 行 (160 字～280 字))

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

② ①の結果はどうでしたか。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

2022 年度は、オンラインから対面が変わったため前年度の授業評価を反映させることが難しかった。次年度は、本年度の内容を踏まえ学生がより講義や実習を理解できるよう内容を吟味して講義や実習を行うことを考えている。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7 行（160 字～280 字））

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

臨床検査技師を養成する学科である以上、学生を教育し臨床検査技師の資格を取得させることは教員の責務である。一方、大学の使命は資格を取得するばかりでなく学術的知識の向上を求められている。大学教育の基本は自学であるが、中学・高校を通じて自学習習慣が身に付いていない学生が一定数いる。学生に対しては、自己学習の習慣を身に付けるため課題を出し提出された課題について学生にフィードバックすることで学生自身が自己の弱い部分を気付くことができると考えています。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2 行（40 字～80 字））

学内で開催される FD 研究会に参加し、自分の不足している部分を見出し補完するよう取り組んでいる。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6 行（120 字～240 字））

短期的目標

自分が担当している科目について、学生が知識を習得しさらに深化させるための教材の工夫を行う。また、適宜小テストや課題レポートを課すことで学生がどこまで理解してい

るか把握することに努める。このため、提出されたテストや課題については学生にフィードバックするようにする。

長期目標

卒業研究等を通して、自分の行っている研究を学生と共に進めることで座学や実習では習得できない技術や知識を深める。さらに、学会等での発表を行い自分の行った研究を第三者に理解できるようなプレゼンテーション力を身に付けられるよう努力する。これらの事を行うことで学科全体のレベルを向上させるよう努める。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡